

全体会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方（令和6年度第2回）

令和6年度第2回全体会では、「区民の防災意識の向上策について」というテーマに絞り、各部会に分かれ意見交換を行っていただきました。各部会から出された主なご意見を紹介します。

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
こども青少年部会	・自助としては、生理用品や祖父母の薬をポーチに入れるなどを含め、防災カバンを用意している。 ・家庭内で子どもたちとも、災害の種類ごとに避難場所を決めて徹底している。 ・各学校におけるジュニア防災リーダーの取組を進めていき、幼い子ども、高齢者等率先して助けていくという若い力を育てていきたい。 ・ライフラインが全て止まってしまうほどの本当に大規模な災害が生じた場合は、地域での避難所開設どころではないのが実態だと思うので、インフラやライフラインが通っているエリアまで徒歩で広域的に避難するつもりだ。 ・区民まつりのように「防災の日」を設け、他のイベントと重ならないよう防災の日には各地域で避難訓練等を行い、区民の防災意識を高めるのはどうか。	・自分の地域以外の防災訓練、防災学習会にも行けるようにしてはどうかというご意見ですが、それぞれの地域での地域防災の方々にお伺いする必要があると考えています。 またその時に外国人の受け入れは可能か、可能であれば受け入れの支援について国際交流センターと連携しながら機会を増やしていきたいと考えています。 ・防災訓練の情報はホームページに随時更新されていますが、随時情報を確認をするのは難しいと思いますので、大阪メトロの構内にQRコードを表示するとか大阪市ラインのプッシュ通知を活用するなど情報発信していきたいと考えています。 ・防災の日のアイデアについては、検討したこともございますが、なかなか実現には至っておりません。しかしながら、他の行事と重ならないようにするというのは非常に重要と考えており、こういった働きかけを整理して進めていきたいと考えています。	当日は委員の皆様にご貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。 当日の回答の補足としまして、各種の防災意識の向上策のアイデアについては、予算や人員確保等の課題も鑑み、実現可能なものについては取組を進めていきたいと考えています。	協働まちづくり推進課
福祉部会	・備えとして各団体での食料、水、毛布などのストックに加え、薬のローリングストック（必要量の備蓄を用意し、定期的に消費しながら買い足して管理する方法）も必要。 ・起震車を呼ぶ、阿倍野防災センターにみんなで行く等、防災学習会の内容をもう少し充実させてほしい。 ・小学校単位では色んなことをやっているが、一人暮らしの高齢者や外国人等、地域の情報から離れている方が取り残されないよう対応してほしい。			
安心安全・まちづくり部会	・ローリングストックの実施や地域の防災訓練に参加するなど自助についての意識が高い方が多かった。 ・避難場所を決めていない人への対応策については、学習会に参加することが効果的なため、参加者が少なくても継続することが重要。またある地域では、午前、午後の2部制にしている。高齢の方は日中参加される方が多く、働いている方は夜の方が参加しやすい。 ・防災訓練や学習会は自分の地域以外でも日程が合えば参加可能にし、またそれをチラシやポスターで周知することが効果的だと考える。 ・学習会や防災セミナーは積極的に行われていると思うが、駅の構内で周知すれば、通勤通学中の人の目に止まり、効果的だと思う。 ・大阪メトロと協力し、津波避難ビルの表示や周知をするのが効果的なのではないか。 ・人が集まるタイミングで避難活動や津波のイメージ映像を流すと効果的だと思う。 ・障がいのある方には障がい者手帳の更新のタイミング等で防災に関する各種案内をすると効果的だと思う。 ・平日に福祉施設に通う方向けに避難訓練を行い、またそれに地域の方が参加するなど小規模の避難訓練を少しずつ行っていくのもよいと思う。			
全体を通して	・こども青少年部会の「防災の日」を設けるのはすごく良いアイデアだと思う。実際に港区内の避難所開設訓練の日に子ども会の大会と重なってしまい、保護者の方に申し訳なかった経験がある。そのような日を設けることで誰もが参加しやすくなると思う。 ・学習会を2部制にするのは、日中参加できない働いている方も参加できるのでよいと思う。 ・私の地域では餅祭りや子ども向けのイベント前に避難訓練を開催していたこともあるが、どうしても開催者側の負担が大きく辞めてしまった。しかし協力者が多ければイベント前に開催する方が参加者は増えると思う。 ・災害時にはモバイルバッテリーが重要なので、AEDと同じような設置間隔で街中に非常時に使える公共の電源があったらよいと思う。	モバイルバッテリーのご意見については、大阪観光局が今後マップの設置を増やす際にその機能がついていると聞いています。また必ずしも行政がすべてお金を出すことが公共ではなく、例えば地域の会館で充電をできるようにし、またそれを地図に落とし込むなど工夫することも考えられます。	モバイルバッテリーに関して貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。 当日の回答の補足としまして、スマートフォンの普及に伴い、外出先で充電するニーズも増えたことで、一般的な製品にもなっていますので、ご自身で日頃からできる備え(自助の取組)として、携行していただきたいと考えています。	